

八回生 伊藤 彰教

(日興証券本社勤務)

私が西高を卒業したのは昭和四十九年三月だから、はや十年が過ぎた。ついでこの間に思えるが、高校時代を振り返りかえる事は所謂一昔前を思い出す事になる。今は仕事の関係で東京での一人住いが六年目となるが、丸ノ内のビジネス街で生き馬の目を抜く様な生活を続けていると、ふと西高の校舎からみた伊吹山や長閑な田園を思い出して心が和む事がある。当時はまだ一宮高校と学校群になる前であり、現在の受験地獄などといわれる状況から較べれば信じられない程のんびりとした又、結構のびのびとした高校生生活であった。大学受験を控えた三年生といえども、放課後は始終みんなでサッカーや野球に興じていたものである。唯一不幸な出来事といえば、西高入学時からのクラスメイトで、大学卒業後は養護学校の先生となった親友(近藤富裕君)が、心労からかノイローゼとなり自殺してしまった事で友人からの電話で連絡を受けた時は、非常にショックを受けた。彼は明朗快活な性格で野球のファーストをやり成績も優秀で、いつもトップクラスだった。何か相談のつてやれる事があつたのではと、悔まれ非常に残念である。

高校時代を思う

九回生 小笠原 優

(大山市立城東中学校勤務)

西高を卒業してもう九年が過ぎました。私は、現在中学校の体育教師として毎日忙しい日々を過ごしています。昨年までは同じ職場に西高出身の後輩、河合敦也君がおり、よく高校時代のなつかしい思い出話を花を咲かせたものでした。また今年も犬山高校へ、私が高校時代恐れていた生徒指導部の戸田元照先生が校長として、転勤されました。大山市という遠い所でも、西高出身者とかかわることがよくあるのです。

十一回生 中野 芳広

(一宮市立萩原中学校勤務)

私は現在萩原中学校で保健体育の教師をして、四年目を迎えています。隣に我が母校西高があり、萩原の地には、何かと縁があり頑張っております。今思えば西高時代は先生方にいろいろ御迷惑をおかけし、なつかしい思い出もなっています。そんな私が現在、教師の立場に立ち生徒を指導しているのです。今年の三月、自分の受け持った生徒が卒業しました。何もわからずこの世界に入った私にとって、日々失敗の連続でした。しかし、苦勞しただけに思い出が、今になってなつかしく思えます。卒業生が時々学校へ近況報告に来てくれますが、今の私にとってその生徒たちの将来が楽しみです。まだまだ未熟者の私ですが、何とか自分なりに自信がつかえました。

十五回生 二俣 好美

(名古屋大学在学)

大学へ入学してから早いもので、四度目の夏が訪れた。学生生活最後の年を私は今、充実した気持ちで過ごしている。四年間の集大成ともいへき卒業論文と、今後の人生を方向づける職業選択という、二つの重要な課題を前にして、身の引き締る思いとプレッシャーを感じている今日この頃なのである。子どもに何らかの形で関わる事ができる職業に就きたいと、常日頃考えていた私であるが、先日母校において、二週間の教育実習を経験させていただき、「教師」という職業に的を絞ろうと決意するに至った。実習前までは出版社に勤めて、フランスの児童図書を日本に紹介したいと思っていたのであるが、実習を経て、直に後輩のみなさんと接し、非常に興味を覚えたからなのである。短期間の実習

なので、教師という仕事の極く一部分しか体験できなかったとは思いますが、それでも自分の将来を賭けてもいいと思わせる何かがあつた。教師という職業は、非常に困難を伴うが故に、生甲斐を感じることができ、又、修練を余儀なくされて自己啓発も望むことができると思つたのである。

ところで、翻訳という仕事をすっかり諦めたわけではない。フランス語の学習は生涯続けようと思つていて、機会があれば翻訳も手掛けたらと思つている。ただ目下のところは、教員採用試験に向けて勉強し、その後は卒論研究に励むつもりである。卒論では、「赤ずきんちゃん」などの原作者、シャルル・ペローの童話について種々な角度から考察しようと考えている。

今年の夏は私の生涯において、重要な意味を持っている。暑さに負けず、全力を注ぎたいと思つた。

ご案内

同窓会総会

同窓会総会を左記の要領で実施いたします。会員各位の御出席をお願いします。

日時 八月十九日 午後十一時より

終了後、立食パーティー(無料)を準備しております。

場所 母校・体育館

※なお準備の都合上、八月十日までに同封の葉書で出欠をお知らせ下さい。

新幹線ならばわずか二時間程度の距離とはいえ、一年に数回しか帰らず、その後ごぶさたしている先生や友人も多くなつてしまつたが、何も連絡がないのは元気で活躍されている証拠と思ひ、私もみんなに遅れをとらじと、頑張っている毎日である。

自分の高校時代をふり返ると思い出されるのは野球部のことばかりです。入学した頃は野球同好会として必死に野球部設立の為に活動していました。そして夏には野球部が認められたのですが、私にとってはラッキーでした。それは今まで数多くの同好会の先輩方の苦勞があつたからなのです。そのおかげで三年間、野球をやる事ができたのです。こんな気持ちも、今になって本当に思うようになります。年二回の野球部のOJ会で、当時の先輩、同級生、後輩に合うのが楽しみなのです。

私は新聞等で運動部の活躍とか、大学合格者とか今でも西高のことが気になります。やはりそれだけ西高出身というところに誇りを持っているのでしょう。

昨年は西高創立二十周年というところでしたが、今後増々の発展を願っている一人です。

私が常日頃生徒たちに言っている言葉は、「強い信念を持って、消極的に成功するより積極的に失敗せよ。」です。そうした